

令和6年度寄附講座事業成果報告書

(徳島大学大学院医歯薬学研究部 実践地域診療・医科学分野)

1 概要

本寄附講座は、2015年11月-2020年3月までJA 徳島厚生連阿南医療センターにおいて、地域医療支援活動していた寄附講座「糖尿病・代謝疾患治療医学分野」を基盤として、発展改組の形をとって2020年4月1日に実践地域診療・医科学分野として発足しました。現在、支援診療科目とスタッフを拡充し、糖尿病などの生活習慣病・循環器疾患・血液疾患・消化器内科・外科疾患・乳腺および甲状腺疾患・放射線等画像診断に関して、阿南医療センターでの外来診療や病棟診療などの包括的な総合診療支援業務を実施しています。また同センター内に開設された阿南地域医療教育センターを拠点として、徳島大学の実習医学生・研修医および専攻医の効果的なトレーニングを実施し、将来の地域医療を担う若手医師育成や、臨床研究の推進を活動目標としています(下図)。



構成員は、特任教授 6 名(糖尿病・内分泌代謝内科学:栗飯原賢一、循環器・不整脈学:添木武、消化器外科学:西 正暁、放射線医学:新家崇義、血液内科学:中村信元、消化器内科学:河野豊)、特任准教授 1 名(糖尿病・内

分泌代謝内科学:湯浅智之)、特任助教1名(胸部内分泌腫瘍外科学:坂本晋一)、技術補佐員2名(上元良子、関根明子)で活動しており、具体的な本講座の主要業務としては以下の5つの点であります。

- ① 包括的な地域医療に必要な人材を育成するための研修方法の開発
- ② 限られた医療人材による効率的な地域医療のあり方に関する研究
- ③ 地域住民の生活習慣病やそれに関連する循環器疾患の発症進展予防のための臨床基盤研究
- ④ 地域での消化器疾患・血液疾患・内分泌腫瘍および各種癌患者の診断・治療技術向上のための研究
- ⑤ 救急を含む急性期医療における地域動向解析と適切な診療技術や診療システムの開発

2 教育面

(1) 卒前教育

徳島大学医学部医学科の学生に対して、各診療科におけるPBLチュートリアルコースの正副責任者として、コース運営にあたっています。また、クリニカル・クラークシップにおいては、徳島大学病院の外来・病棟実習で指導を行っています。地域医療学実習としては、新型コロナウイルス感染によるバーチャル実習から対面実習に戻すことになり、現在は1班3名ずつの受け入れ、回復期リハビリ病棟での実習および訪問看護同行実習を行っています。また、徳島大学病院でのクリニカルクラークシップ終了後の、指定学外実習、および選択実習についても医学部学生を受け入れ、診療グループの一員として内科系診療科および外科系診療科領域の実習(医学部生に対して、手術に実際に参加してもらい皮膚縫合などを行ってもらっています)や症例報告書の発表指導および早朝のミニレクチャーを実施しています。

(2) 卒後教育

徳島大学病院卒後臨床研修センターおよび徳島大学大学院医歯薬学研究部 血液・内分泌代謝内科学教室、消化器内科学教室、循環器内科学教室、胸部・内分泌・腫瘍外科学教室、消化器移植外科学教室、放射線医学教室と連携し、初期研修医の教育や臨床指導を大学病院および阿南医療センターにおいて実施しています。さらに毎週水曜日に阿南地域医療教育センターにおいて寄附講座スタッフと阿南医療センター若手医師で抄読会や症例検討会を実施しており、英語論文作成指導も個々に行なっています。

3 研究面

本講座では、徳島大学病院と阿南医療センターの診療を通じて、基礎および臨床面での各診療領域での病態解明と治療の開発研究を行うことを大きな使命としています。研究テーマとしては以下のものが進行中であり、研究論文発表も行いました。

<糖尿病・内分泌代謝内科学分野>

(1) 病態モデル動物及び臨床バイオマーカーの解析と糖尿病・代謝疾患関連合併症の発症機序解明

遺伝子改変動物を用いて、代謝・循環改善薬の介入による臓器保護効果の検証や病態解明を行う他、受診患者さんの臨床サンプルや臨床データを解析することで、効果的な治療法の開発を目指しています。

① インスリン抵抗性関連疾患群におけるインスリン受容体切断の意義

インスリン作用が阻害されるインスリン抵抗性は、臨床医学的に糖尿病の病態を担う重要な要素であることが広く認められています。さらに、糖尿病との関連が深い疾患においてもインスリン抵抗性がそれぞれの病態に関わるとされていますが、その基盤となる共通の分子機構は見出されていません。これまで我々は独自の視点で新たなインスリン抵抗性メカニズムの同定とバイオマーカーとしての可溶性インスリン受容体の意義について検討してきており、糖尿病や妊娠中に認めるインスリン抵抗性に共通する分子基盤であることを見いだしてきました。この事象が癌やアルツハイマー病、肥満、肝疾患といったインスリン抵抗性関連疾患群に広く関わっている可能性を検証してきたところ、特定の転写因子との関連を見出し詳細な分子機構の解明を行っています。

② 代謝機能障害関連脂肪性肝疾患(MASLD)の病態解明と薬物療法の探索

代謝機能障害関連脂肪性肝疾患(Metabolic Dysfunction-Associated Steatotic Liver Disease:MASLD)は肝硬変・肝癌発症のリスク因子であり、かつ心腎血管病発症リスク因子であることが最近注目されています。現在、この病態の分子病態の解明に加え、脂質異常症の治療薬であるベマフィブラートによる MASLD 病態改善効果のメカニズムについて検証し、学会口演発表や論文投稿準備中です。

③ 末梢血赤血球指標と代謝関連肝腎臓器障害の関連解析

赤血球の Mean corpuscular volume(MCV)は、貧血病態の鑑別に有用である他、加齢とともに増大する事が知られています。また MCV は総死亡や肝腎症候群の発症と正の相関を示す事が近年報告されているため、我々は MCV の MAFLD 病態関連指標における意義を検証し、学会口演発表の他、論文投稿中です。また Red blood cell distribution width (RDW)は、赤血球容積不均一性の指標で、従来は貧血などの造血器異常のマーカーとして使用されていました。近年、心不全をはじめとする心血管疾患の罹患率や予後のリスクマーカーとしての有用性が報告された他、血液透析患者や慢性腎不全患者の予後指標となることも明らかになってきたため、糖尿病関連腎臓病における意義を見出し、論文投稿準備中です。

(2) 生活習慣病患者における早期動脈硬化病変の検出と治療介入の効果検証

受診患者さんの早期動脈硬化症の病態検出目的と心血管合併症発症や予後予測の強力なエビデンスを有する血管内皮機能検査(FMD)の積極的な導入を行い、FMD の正常化を目指した病態解析や治療法の開発を目指しています。我々は、セミオートマチックの FMD 測定装置を阿南医療センターと徳島大学病院に導入し、血管内皮機能の改善や悪化に関与する臨床指標の解析を行っており、FMD 検査の結果を患者さん個々の診療にフィードバックすることで、生活習慣は正に活用しています。また AI による自動画像解析にて上腕二頭筋の断面積や筋輝度を算出できる新しいソフトウェアを用いて、骨格筋・血管機能連関の解析を行い、その新知見を学会シンポジウムでの発表の他、論文投稿準備中です。

(3) 体組成解析を用いた骨格筋代謝および機能異常症における病態解析

高齢化社会において、フレイルは大きな臨床課題となっています。そこで主として糖尿病患者を対象に、骨格筋代謝および機能異常症としてのサルコペニア・プレサルコペニア・ダイナペニアに関わる臨床指標の診断のために、InBody S10[®]による生体電気インピーダンス法(BIA:Bioelectrical Impedance Analysis)を用いた体組成解析を行なっています。日常診療において BIA 法の検査結果レポートを用いた患者指導を行ない、フレイル予防に注力しています。また骨格筋異常のみならず、BIA で測定した位相角と糖尿病関連臓器障害との関連解析を現在進めています。

<血液内科学分野>

(1) 各種疾患における口腔内免疫・細菌叢と各種臨床指標の相関に関する検討

近年、常在細菌叢と各種疾患との関連が注目されている。口腔内には多数の常在菌が生息していると同時に、唾液が消化液として分泌されるものの抗菌物質を多数含んでいることが知られています。このような常在細菌叢や唾液中の抗菌物質と、各種疾患または病態との関連はほとんど知られていません。本研究では、当院で診療中の患者において唾液を採取し、各種臨床指標やその経過に如何に影響を与えるのかを検証しています。

(2) 造血管疾患における病態関連因子およびバイオマーカーの探索

造血管腫瘍において、化学療法その他の再発例や初回治療療法抵抗例などは依然予後不良であるため、病態に関連する因子の抽出は喫緊の課題です。また非腫瘍性疾患も多く存在し、ステロイドなどの免疫抑制療法が試みられますが、治療反応は個体差が大きく、事前に予測が可能なバイオマーカーの同定も求められています。造血管疾患の患者の検体を収集し、徳島大学血液内科の検体と併せて、新規の病態関連因子や治療の反応性予測因子、および予後因子を見いだす検討を行っています。

(3) 新型コロナワクチンの有効性・安全性の検討

新型コロナウイルス感染症が世界的に流行し、人々の生命や生活、経済を脅かしています。ワクチン接種が世界中で開始されましたが、臨床応用された世界初の mRNA ワクチンであり、その有効性、安全性は十分には知られていません。新型コロナウイルスに対する抗体および製剤に含まれるポリエチレングリコールに対する抗体やその持続期間、また COVID-19 感染予防効果、ワクチンの副反応について検討し論文発表しました(Heliyon. 2024;10(10):e31489.)。また、ワクチンによる稀な副反応を起こした例も経験し、論文発表しました(Thromb Haemost. 2022;122(10):1837-1842.)。

(4) 生活習慣病における肝臓-血液連関

生活習慣病などの代謝性疾患において、肝障害から肝臓癌を来す例が近年増加しており、代謝機能障害関連脂肪肝疾患として対策が求められています。このような代謝性疾患では血液疾患とは関連がないと従来は考えられてきましたが、貧血への影響を検討しています。

(5) 稀な造血管疾患におけるゲノム解析

造血管疾患は比較的頻度が低いと考えられていますが、その中でも稀な疾患においては病態が十分には解明されていない疾患もあります。このような疾患においては全ゲノム解析が有効な可能性があり、研究レベルで積極的に行っています。

<循環器内科学分野>

臨床医として強い問題意識を持ち、ヒトでの臨床研究を推し進め、臨床での問題点を基礎研究により理論的に解明していくという姿勢で、不整脈を中心とした循環器領域の基礎。臨床研究を行っています。

(1) 慢性炎症としての心房細動の病態解明と治療法開発

複数の凝固因子(プロテアーゼ)が血栓形成のみならず、さまざまな細胞に発現するプロテアーゼ活性化受容体(PAR)を介して、炎症反応にも関与することが知られています。なかでも PAR-2 は主に Xa 因子(FXa)によって活性化されることが報告されています。我々は、FXa-PAR2 経路が心房細動発症に寄与していることを PAR2 欠損マウスを用いて生理学的・生化学的に証明しました。さらに、PAR-2 のリガンドである経口 Xa 阻害薬が抗炎症作用を介して心房細動発症を抑制しうることを自然高血圧ラット用いて証明しました(論文掲載予定)。また、近年、動脈硬化などの基盤として慢性炎症が関与していることが知られており、なかでも病原体センサーとしての

Toll-like 受容体(TLR)の関与が示唆されています。心房細動の基盤としても慢性炎症が関わっているとされていますが、TLR の関与などその詳細は不明のままです。そこで、我々は TLR9 欠損マウスを用いた基礎的アプローチ、心房細動アブレーション症例のサンプルを用いた臨床的アプローチの両面により、TLR9 シグナルによる心臓リモデリングと心房細動発生メカニズムの解明を進めています(研究成果の一部は学会・論文として発表)。

(2) 心房細動発症の新たな予測因子の検討

心房細動は頻度の高い不整脈でありその予防対策が肝要でありながら、簡便で有用性の高い予測因子はありません。我々は、臨床背景、ホルター心電図指標、心エコー指標を総合的に評価した複合スコアにより心房細動発症の予測が可能かを検討しています。現在までの検討では、年齢、上室性期外収縮 1 日総数、最大 RR 間隔、左房径が独立して心房細動発症のリスクを高めることが判明し、これらの因子を点数化したスコアが高くなるにしたがって心房細動発症の発症率は高くなることを見出しました(論文にて発表)。さらに、12 誘導心電図から右・背中側誘導を算出した導出 18 誘導心電図という新技術を用いれば、既存の 12 誘導心電図の P 波より心房の状態を正確に推測できる可能性があるかと推察されますが、過去にそのような報告はありません。そこで、我々は導出 18 誘導心電図の P 波と心房細動発症や左心房サイズとの関連を検証しています。

(3) 心房細動・心不全患者におけるサルコペニアと各種臨床指標の相関に関する検討

高齢者に見られる病的な筋肉量の低下はサルコペニアと称され、生理的予備能が低下するフレイルの状態につながるとともに、認知症や、心血管病、腎障害、貧血、免疫力低下などの疾患と密接な関係があることが明らかになってきました。しかしながら、サルコペニアと心房細動の発症・進展、認知症、心不全との関連については十分に解明されていません。そこで、心房細動、心不全にて診療中の患者における体組成測定を行うことで、サルコペニアの頻度の調査を行い、骨格筋量が各種臨床指標やその経過に如何に影響を与えるのかを検証しています。成果は国際学会でも発表し、現在英語論文の投稿準備中です。

<消化器内科学分野>

脂肪肝モデルマウスを用いた健康食品の治療効果検討

本邦では 40 歳代の 2 人に 1 人の男性は検診時に脂肪肝と診断されるが、この脂肪肝は生活習慣の改善以外に有効な治療薬はまだ存在しません。高脂肪食を給餌させたマウスに抗酸化ストレス作用のあるエゾウコギの根の抽出物を給餌すると、脂肪肝や線維化の改善効果を認めました。本研究結果をまとめて英語論文として誌上発表しました(Kawano Y, et al. Sci Rep. 2024 Jan 2;14(1):110.)。さらにエゾウコギを 6 か月間給餌したマウスのメチル化 DNA を解析したところ、老化の抑制が確認されました。今後はこの結果をさらに精査・解析して健康寿命の延伸を目的とした研究を計画しています。

<放射線医学分野>

(1) 画像診断ナショナルデータベース実現のための研究開発

日本医学放射線学会は、放射線医学が国民の健康と福祉の増進に寄与するために ICT(情報通信技術)化を推進し、ビッグデータや人工知能を活用した医療の構造改革を実施しています。その一つとして 2016 年より日本医用画像データベース(J-MID)が始動していますが、2021 年からは徳島大学も北海道大学、愛媛大学とともに新生 J-MID に加わり、現在は全国の主要 16 医療施設の新体制で大規模画像診断データベースの構築を行っています。画像診断検査装置や検査オーダー、撮影、診断のそれぞれに応じた医療技術、医療安全、医療被ばく低減、医療の質の向上を目的とし、人工知能の開発や発展のための研究開発を目指しながら、現在も全国的な画像データベースの構築を進めており、そのビッグデータに基づく研究がスタートしています。

(2) テクスチャ解析を用いた卵巣腫瘍や軟部腫瘍の MRI 画像および PET/CT 画像の検証と新規診断法の開発

卵巣腫瘍や軟部腫瘍の術前に良性・境界悪性・悪性など組織型の画像診断の精度には限界があり、新たな画像診断法の開発が望まれています。本研究では徳島大学病院産婦人科と整形外科と共同で、術前の MRI や PET/CT などの画像診断において、画像の質感を数値化できるテクスチャ解析やダイナミック PET/CT などの新たな撮像法を用いることで、卵巣腫瘍や軟部腫瘍の術前診断精度の向上が図れるかどうかを検証することを目指し、症例登録およびデータ収集を行っています。また現在まで蓄積された卵巣腫瘍および軟部腫瘍の画像データを解析し、中間報告として学会発表を行っています。

<胸部・内分泌・腫瘍外科学分野>

(1) 肺の再生に向けた、iPS 細胞から誘導した BASCs による細胞移植の可能性

幹細胞とは、自己複製能と様々な細胞に分化する能力(多分化能)を持つ特殊な細胞で、この2つの能力により発生や組織の再生などを担う細胞であると考えられています。我々が注目した BASCs は肺の修復、再生中の自己複製を伴う肺上皮幹細胞で club cell, 1 型および 2 型肺胞上皮細胞を含む複数の細胞系統に分化します。マウスから BASCs を単離する方法は確立されていますが、得られる細胞数が非常に少ないため我々は iPS から BASCs を誘導することを研究してきました。その結果 iPS から BASCs 細胞を誘導し、気管障害を引き起こすナフタレンモデルを用いて Club cell が修復したことを示すことに成功しました。ただ、iPS 由来の BASCs が生体の BASCs のように正常に機能したかについてはわかっておらず、現在はその証明をテーマに研究を行っています。我々は iPS 由来の BASCs 細胞を用いて 3D 培養を行い Organoid の作成に成功しました。そして 1 型/2 型肺胞上皮細胞、Club 細胞、BASCs 細胞、Bipotential 細胞が形成されていることを確認しました。続いて Bulk RNA sequence を用いて iPS 細胞、分化細胞、iPS 由来の BASCs の比較を行いました。RNA sequence、Organoid の結果 iPS 由来の BASCs には多分化能を有することがわかりました。またヒトにも同様の幹細胞(respiratory airway secretory)が発見され我々の研究が人へ応用できる可能性があります。今まで行った研究成果は現在、論文投稿中です。

(2) 間葉系幹細胞による気管支の修復メカニズムの解明 -iPS 細胞による気管支断端瘻予防-

(3) ILD-GAP index を用いた間質性肺炎合併肺癌に対する治療戦略 -予後因子に基づいた層別化治療-

間質性肺疾患は肺癌を高率に合併し 15%は悪性腫瘍で死亡するとされています。また、間質性肺炎自体も多くの場合は予後不良で、間質性肺炎の進行、特に急性増悪に伴う呼吸不全死も予後に影響するため通常の肺癌に比べて予後不良とされています。

実際の治療においても肺癌に対する治療を契機に誘発される致死的な間質性肺炎急性増悪が最大の問題点で、治療の制約となっています。放射線治療は原則禁忌と考えられ、抗癌剤治療もレジメンが制限されます。よって癌の根治性を考慮し、切除可能ならば手術が選択される場合が多いと考えられます。ただ、手術を選択する時には肺癌の病期のみならず間質性肺疾患そのものの病状を考慮し治療方針を選択しなければ術後の呼吸状態によって QOL 低下を招く可能性があります。そこで予後に影響を及ぼす臨床病理学的背景を検討し外科治療の個別化に関する研究を行いました。研究成果の一部は 2022 年に開催された第 39 回日本呼吸器外科学会学術集会、第 84 回日本臨床外科学会総会研究成果の一部は 2022 年に開催された第 39 回日本呼吸器外科学会学術集会、第 84 回日本臨床外科学会総会、第 76 回胸部外科学会で発表を行いその結果は、Int J Clin Oncol. 2024 Oct;29(10):1475-1482.に accept されました。

(4) U-40 呼吸器外科医が高難度手術手技を習得するための取り組み

気管支・血管形成術や心嚢内血管処理といった高難度手術手技の習得は必須ですが、若手呼吸器外科医の執刀機会は少ないです。特に症例数の限られた地方大学ではその傾向が顕著であり、高難度手術手技を効率良く習得するための質の高い教育をいかにして行うかが喫緊の課題となっています。そこで当科では Cadaver と生体ブタを用い、それぞれの特性を生かしたトレーニングを実施しており、その特性について述べます。

① 未固定遺体を用いた Cadaver トレーニング:

未固定遺体の最大の利点は、臓器の弾力性、神経・血管の分布や走行が生体に近いことにあることです。気管支を把持した感触、運針が実際の手術と同じ感触で、口径差を調節した気管支形成の手技も実施可能で、解剖学的位置関係の把握が極めて重要な Superior sulcus tumor や心嚢内肺血管処理を想定したトレーニングにも有用であります。

② 生体ブタを用いたトレーニング:

本学では獣医師が常駐した生体ブタのトレーニングラボを有しています。血管系が虚脱して脆弱な Cadaver ではリアリティを再現できない血管形成手技のトレーニングに最適です。当施設は Cadaver と生体ブタ両方のトレーニングラボを有する稀な施設であり、それぞれの特性を余すことなく活用し、繰り返しのトレーニングを行うことで症例数の少なさを補完しています。トレーニングで得た知識・技術を共有して個々がレベルアップすることで、高難度の手術手技を安全に提供できるようになると考え取り組んでおり、以上を第 40 回日本呼吸器外科学会学術集会で報告し、その取り組みについて論文も投稿しております (General Thoracic and Cardiovascular Surgery Cases 2023 Vol. 2 Issue 1)。U-40 呼吸器外科医のトレーニングプログラムを構築し、まずは関連施設へ参加可能範囲を拡大する方針です。

(5) 区域切除

近年、肺がん診断精度の進歩によって小型病変の占める割合が増加しております。そして小型肺がんにおける区域切除の優位性を示した JCOG0802/WJOG4607L の結果を受け、今後ますます区域切除が増加すると予想され、実際当院でも区域切除を選択する症例は増加しております。今後の呼吸器外科医は肺葉切除と同等の根治性を担保しつつ、呼吸機能を可能な限り温存するための高度な技術と治療戦略が要求されます。第 98 回中国四国外科学会で区域切除術のシンポジウムを開催し、各施設の創意工夫について議論を行い、当施設からは複雑区域切除の周術期成績を検討し、術前のプランニングと手術手技の工夫について報告しました。

(6) ICG を用いたリアルタイムナビゲーションの取り組み

Indocyanine green (ICG) は近赤外光照射下に蛍光を発し、この性質を利用した手術ナビゲーション (ICG 蛍光法) は、冠動脈バイパス手術中の血流評価や乳癌のセンチネルリンパ節生検などに臨床応用されています。呼吸器外科領域では上記の区域切除での区域間の同定法に頻回に用いられています。それ以外にも様々な症例に臨床応用が可能であり、我々は新たに胸腔内のリンパ管を同定することに用いました。通常、目視では確認することができないリンパ管や乳糜胸水の漏出部位の同定が可能となりました。この研究成果を 2024 年に開催された第 86 回日本臨床外科学会総会で発表し、現在 Asian journal of endoscopic surgery に投稿中です。

<消化器・移植外科学分野>

(1) 消化器癌のバイオマーカー研究

近年、バイオマーカー研究として簡便で侵襲が少ないリキッドバイオプシーが注目されています。リキッドバイオプシーは患者の血液などを採取して、その中に含まれている循環腫瘍細胞や DNA、RNA を用いてゲノム解析を行う方法であり、治療前後の効果予測などが可能です。リキッドバイオプシーの中でも、癌細胞から分泌されるエクソソームに着目し、患者検体を用いたエクソソーム内包 miRNA を用いる事でスクリーニングから診断、術後の再発や治療の効果予測、治療後のモニタリングまで多岐にわたる臨床応用を目指しています。

(2) 腫瘍微小環境における糖代謝・脂質代謝研究

腫瘍関連マクロファージ (TAM ; tumor associated macrophage) や癌関連線維芽細胞 (CAF ; cancer associated fibroblast) は腫瘍微小環境において、癌の浸潤・転移・腫瘍免疫に関与することが広く知られるようになり、癌研究の中心は癌細胞から TAM・CAF などの腫瘍微小環境構成細胞にシフトしてきています。我々はこれまでに CAF の糖代謝を制御することで、腫瘍悪性度を低下させることを報告してきました (Int J Oncol. 2022, Oncol Lett. 2022)。TAM・CAF の糖代謝・脂質代謝を制御することで腫瘍悪性度抑制・腫瘍免疫制御を介した新規治療法の開発を目標としています。

(3) 消化器癌への青色 LED 光の効果

我々はこれまでに消化器癌に対する青色 LED (light emitting diode) 光の抗腫瘍効果に着目し、研究を行い、青色 LED 光の癌細胞に対する効果のみならず腫瘍微小環境へも影響を及ぼすことを報告してきました。今後、正常組織への影響や腫瘍への至適照射条件を明らかにし、青色光受容体をターゲットとした大腸癌に対する光治療の実用化を目指しています。

<学会発表>

国際学会

1	<u>Shingen Nakamura</u> , Youichi Sato, Yusaku Maeda, Ryohei Sumitani, Masahiro Oura, Kimiko Sogabe, Hikaru Yagi, Shiro Fujii, Takeshi Harada, Masahiro Abe, Hirokazu Miki, Ken-ichi Matsuoka : Identification of Light Chain Amyloidosis-Associated Single Nucleotide Variants in Japanese People. The 66 th ASH annualmeeting, 7-10 Dec, 2024.
2	Junpei Murai, <u>Shingen Nakamura</u> , Yasunobu Okamoto, Taiki Hori, Tomoyuki Yuasa, Ken-Ichi Aihara, Makoto Takishita, Takeshi Harada, Ken-ichi Matsuoka: Factors Associated with Elevation of Alkaline Phosphatase after First-Line Chemotherapy in Newly Diagnosed Multiple Myeloma By Japan Medical Data Center Claim Database. The 66th ASH annualmeeting, 7-10 Dec, 2024.
3	Takeshi Harada, Yusuke Inoue, Asuka Oda, Jumpei Teramachi, Yusaku Maeda, Ryohei Sumitani, Masahiro Oura, Kimiko Sogabe, Hikaru Yagi, Shiro Fujii, <u>Shingen Nakamura</u> , Hirokazu Miki, Kumiko Kagawa, Shuji Ozaki, Ken-ichi Matsuoka, Masahiro Abe: Steric Hindrance By APRIL in Binding of BCMA-Directed Bispecific Antibodies: A Novel Refractory Mechanism of BCMA-Directed Immunotherapies in Multiple Myeloma. The 66th ASH annualmeeting, 7-10 Dec, 2024.
4	Hirokazu Miki, Hiroki Takanari, Shin-ichiro Yanagiya, Mizuki Yoshimoto, Yusaku Maeda, Ryohei Sumitani, Masahiro Oura, Kimiko Sogabe, Hikaru Yagi, Mamiko Takahashi, Takeshi Harada, Shiro Fujii, <u>Shingen Nakamura</u> , Yoshimi Bando, Koichi Tsuneyama, Masahiro Abe, Ken-ichi Matsuoka: Development of a Novel and Rapid Diagnostic Technique for Cardiac Amyloidosis Using Raman Spectroscopy. The 66th ASH annualmeeting, 7-10 Dec, 2024.
5	<u>Shingen Nakamura</u> , Yusaku Maeda, Ryohei Sumitani, Masahiro Oura, Kimiko Sogabe, Hikaru Yagi, Shiro Fujii, Takeshi Harada, Hirokazu Miki: False-positive aspergillus galactomannan test in multiple myeloma, ID week 2024, Los Angeles, 16-19, Oct, 2024.
6	Bando R, Yamaguchi K, Wakatsuki T, Ise T, Yagi S, Yamada H, <u>Soeki T</u> , Sata M. Predictors of late lumen enlargement after drug coated balloon angioplasty for denovo coronary lesions. ACC 2024, Atlanta, 6~8 April 2024

7	Bando R, Wakatsuki T, Yamaguchi K, Takahashi T, Ise T, Yagi S, Yamada H, <u>Soeki T</u> , Sata M. Clinical outcome of DCB vs DES for de novo large coronary lesion in HBR patients. Euro PCR 2024, Paris, 14~17 May 2024
8	Saijo Y, Yamada H, Zheng R, Takahashi T, Kawabata Y, Ueno R, Kadota M, Hara T, Matsuura T, Ise T, Yamaguchi K, Yagi S, <u>Soeki T</u> , Wakatsuki T, Sata M. Differential echocardiographic profiles in immunoglobulin light chain and transthyretin amyloid cardiomyopathy: insights from speckle tracking analysis. ESC 2024, London, 30 August –2 September 2024
9	Takahashi T, <u>Soeki T</u> , Tezuka K, Takahashi T, Saijo Y, Hara T, Kawabata Y, Kadota M, Ueno R, Matsuura T, Ise T, Yamaguchi K, Yagi S, Yamada H, Wakatsuki T, Sata M. NAFLD score predicts the onset of atrial fibrillation. APHRS 2024, Sydney, 26–29 September 2024
10	Tezuka K, <u>Soeki T</u> , Takahashi T, Matsuura T, Tani A, Bando R, Zheng R, Takahashi T, Saijo Y, Hara T, Kadota M, Kawabata Y, Ueno R, Ise T, Yamaguchi K, Yagi S, Yamada H, Wakatsuki T, Sata M. Risk Factors For Intraoperative Instability In Sedated Patients Undergoing Pulmonary Vein Isolation Ablation. APHRS 2024, Sydney, 26 ~29 September 2024
11	Takahashi T, Wakatsuki T, Bando R, Saijo Y, Kawabata Y, Ueno R, Matsuura T, Ise T, Yamaguchi K, Yagi S, Yamada H, <u>Soeki T</u> , Sata M. Association of Elevated Lipoprotein(a) Levels with Adverse Outcomes in Patients with Stable Angina Undergoing Stent-less PCI with Paclitaxel-coated Balloon. AHA 2024, Chicago, 16~18 November 2024
12	Tomoki Matsushita, <u>Takayoshi Shinya</u> , Shoichiro Takao, Seiji iwamoto, Shunichi Toki, Toshihiko Nishisho, Koichi Sairyo, Msafumi Harada. Approaches for the MRI-based differentiation of malignant peripheral nerve sheath tumours from benign schwannomas. ESSR 2024 Annual Scientific Meeting. 2024/06/06 – 2024/6/08. Centro Congressi, Switzerland.
13	Badrazhul Zayabat, Junichiro Hiraoka, Seiji Iwamoto, Naoko Okada, Tomoki Matsushita, Yuta Arai, <u>Takayoshi Shinya</u> , Kei Daizumoto, Yoshito Kusuhaara, Furukawa Junya, Masafumi Harada. A case of difficulty in postoperative hemostasis due to acquired von Willebrand syndrome. MCR2024. 2024/06/21 – 2024/06/22. Corporate Hotel & Convention Center, Mongolia.
14	<u>T. Shinya</u> , T. Matsushita, Y. Otomi, M. Kubo, S. Takao, T. Nishisho, K. Sairyo, M. Harada. Dynamic carbon-11-labeled methionine positron-emission tomography with texture analysis for the differential diagnosis between benign and malignant musculoskeletal lesions. EANM24. 2024/10/19 – 2024/10/23. Cch Congress Centrum Hamburg, Germany.
15	<u>T. Shinya</u> , A. Shinya, T. Matsushita, Y. Otomi, M. Kubo, J. Hiraoka, H. Inui, K. Yoshida, M. Nishimura, T. Iwasa, M. Harada. Preliminary study of the diagnostic capacity of dynamic F-18 fluorodeoxyglucose PET scan in the differential diagnosis of ovarian masses. EANM24. 2024/10/19 – 2024/10/23. Cch Congress Centrum Hamburg, Germany.

国内学会

1	中村信元、宮上慎司、荒井優子、泉侑希、岡本秀樹、北上早紀、後藤さおり、後藤由香、菅俊行、高橋真理、富永誠記、矢野由美子、三木浩和、松岡賢市 蛋白尿を契機に診断された HIV 関連免疫複合腎臓病合併キャスルマン病の一例 第 38 回日本エイズ学会 2024 年 11 月 28-30 日 東京
2	Junpei Murai, Yasunobu Okamoto, Tomoyuki Yuasa, Kenichi Aihar, Makoto Takishita, <u>Shingen Nakamura</u> . Factors that cause elevation of ALP during treatment for myeloma: Analysis using JMDC claim database. The 86th Annual Meeting of the Japanese Society of Hematology Kyoto, 11st–13rd, Dec, 2024.
3	<u>Shingen Nakamura</u> , Youichi Sato, Yusaku Maeda, Ryohei Sumitani, Masahiro Oura, Kimiko Sogabe, Hikaru Yagi, Shiro Fujii, Takeshi Harada, Masahiro Abe, Hirokazu Miki. Identification of light-chain amyloidosis-associated single nucleotide variants The 86th Annual Meeting of the Japanese Society of Hematology Kyoto, 11st–13rd, Dec, 2024.
4	Takeshi Harada, Asuka Oda, Yusuke Inoue, Tomoyo Hara, Ryohei Sumitani, Masahiro Oura, Kimiko Sogabe, Shiro Fujii, <u>Shingen Nakamura</u> , Hirokazu Miki, Kumiko Kagawa, Shuji Ozaki, Masahiro Hiasa, Jumpei Teramachi, Hiroto Ohguchi, Masahiro Abe. Development of ADAR1 and ZBP1-targeting treatment against multiple myeloma with 1q amplification The 86th Annual Meeting of the Japanese Society of Hematology Kyoto, 11st–13rd, Dec, 2024.

5	Hirokazu Miki, Kenji Yamada, Yusaku Maeda, Ryohei Sumitani, Masahiro Oura, Kimiko Sogabe, Hikaru Yagi, Mamiko Takahashi, Takeshi Harada, Shiro Fujii, <u>Shingen Nakamura</u> , Masahiro Abe, Takayoshi Shinya. Imaging quality and versality in whole-body low-dose CT for multiple myeloma The 86th Annual Meeting of the Japanese Society of Hematology Kyoto, 11st-13rd, Dec, 2024.
6	Ryohei Sumitani, Hirokazu Miki, Yusaku Maeda, Masahiro Oura, Kimiko Sogabe, Hikaru Yagi, Mamiko Takahashi, Takeshi Harada, Shiro Fujii, Susumu Nishio, Tetsu Tomonari, Masahiro Abe, <u>Shingen Nakamura</u> Diagnostic efficacy of ultrasound shear wave elastography for hepatic AL amyloidosis The 86th Annual Meeting of the Japanese Society of Hematology Kyoto, 11st-13rd, Dec, 2024.
7	Hirokazu Miki, Kenji Yamada, Yusaku Maeda, Ryohei Sumitani, Masahiro Oura, Kimiko Sogabe, Hikaru Yagi, Mamiko Takahashi, Tomoko Maruhashi, Takeshi Harada, Shiro Fujii, <u>Shingen Nakamura</u> , Masahiro Abe, Takayoshi Shinya Imaging quality of whole-body low-dose CT for myeloma patients with bone disease The 49th Annual Meeting of the Japanese Society of Myeloma, Fukuoka, 31st, May-2nd June, 2024.
8	Tomoko Maruhashi ¹ , Hirokazu Miki, Kimiko Sogabe, Asuka Oda, Maeda Yusaku, Ryohei Sumitani, Masahiro Oura, Hikaru Yagi, Mamiko Takahashi, Takeshi Harada, Shiro Fujii, <u>Shingen Nakamura</u> , and Masahiro Abe Transient receptor potential vanilloid 1 (TRPV1) antagonists enhance the cytotoxic effects of hyperthermia on myeloma cells The 49th Annual Meeting of the Japanese Society of Myeloma, Fukuoka, 31 st , May-2 nd June, 2024.
9	住谷 龍平, 三木 浩和, 前田 悠作, 大浦 雅博, 曾我部 公子, 八木 ひかる, 原田 武志, 藤井 志朗, 中村 信元, 松岡 賢市:OTC 医薬品が被疑薬と考えられた薬剤性血小板減少症 第 131 回日本内科学会四国地方会 2024 年 12 月 15 日 松山
10	大浦 雅博, 中村 信元, 住谷 龍平, 原田 武志, 三木 浩和, 福場 真美, 常松 貴明, 安倍 正博:悪性リンパ腫化学療法後に発症した侵襲性胃アスペルギルス症の 1 剖検例 第 130 回日本内科学会四国地方会 2024 年 6 月 16 日 徳島
11	村井純平, 中村信元, 辻誠士郎, 栗飯原賢一, 滝下誠. 血器疾患患者へのチキサゲビマブ/シルガビマブ投与による抗 SARS-CoV-2 IgG 抗体価の推移経時的変化と COVID-19 予防効果の検討 第 121 回日本内科学会総会 2024 年 4 月 12-14 日 東京
12	<u>栗飯原 賢一, 湯浅 智之, 中村 信元, 山上 紘規, 原 倫世, 遠藤 逸朗</u> : 搬送時心肺停止・死亡転帰患者における糖尿病の有無から見た臨床的背景の検討, 日本糖尿病学会中国四国地方会第 62 回総会, 2024 年 12 月. 岡山
13	<u>栗飯原 賢一, 湯浅 智之, 中村 信元, 村井 純平, 岡本 恵暢, 金子 遥祐, 森 建介, 細木 美苗, 堀 太貴, 河田 沙紀, 辻 誠士郎, 安井 沙耶, 山上 紘規, 原 倫世, 乙田 敏城, 遠藤 逸朗</u> : 来院時心肺停止・死亡転帰患者の臨床背景における糖尿病有無の影響に関する検討, 第 24 回日本内分泌学会四国支部学術集会, 2024 年 9 月. 松山
14	<u>栗飯原 賢一, 三宅 南帆, 辻 誠士郎, 原 倫世, 山上 紘規, 中村 信元, 乙田 敏城, 湯浅 智之</u> : AI 計測による上腕二頭筋断面積・筋輝度比 と動脈硬化指標に関わるパイロット研究, 第 56 回日本動脈硬化学会総会・学術集会, 2024 年 7 月. 神戸
15	原 倫世, 横田 海友, 清水 一磨, 浅井 孝仁, 山上 紘規, 三井 由加里, 梶田 志保, 倉橋 清衛, 乙田 敏城, <u>湯浅 智之, 黒田 暁生, 遠藤 逸朗, 松久 宗英, 栗飯原 賢一</u> : 心血管疾患リスクを有する患者における可溶性 DPP-4/CD26 と動脈硬化指標との関連解析, 第 56 回日本動脈硬化学会総会, 2024 年 7 月. 神戸
16	三宅 南帆, 辻 誠士郎, 河田 沙紀, <u>中村 信元, 乙田 敏城, 湯浅 智之, 栗飯原 賢一</u> : 2 型糖尿病患者の推定食塩摂取量と糖尿病性腎臓病指標の関連解析, 第 67 回日本糖尿病学会年次学術集会, 2024 年 5 月. 東京
17	宮高 紘輔, 金子 遥祐, 山口 佑樹, 原 倫世, 吉田 守美子, 辻 誠士郎, 乙田 敏城, <u>湯浅 智之, 栗飯原 賢一</u> : 2 型糖尿病患者における Red blood cell Distribution Width (RDW)と糖尿病性腎臓病バイオマーカーとの関連解析, 第 67 回日本糖尿病学会年次学術集会, 2024 年 5 月. 東京
18	金子 遥祐, 森 建介, 細木 美苗, 堀 太貴, 辻 誠士郎, 乙田 敏城, <u>湯浅 智之, 中村 信元, 栗飯原 賢一</u> : 2 型糖尿病患者の年間 HbA1c 変動と肝線維化指標の関連解析, 第 67 回日本糖尿病学会年次学術集会, 2024 年 5 月. 東京
19	辻 誠士郎, 河田 沙紀, 金子 遥祐, 森 建介, 細木 美苗, 中村 信元, 乙田 敏城, <u>湯浅 智之, 栗飯原 賢一</u> : 2 型糖尿病患者における dehydroepiandrosterone sulfate(DHEAS)と尿中アルブミン, 尿中 L 型脂肪酸結合蛋白(L-FABP)との関連, 第 67 回日本糖尿病学会年次学術集会, 2024 年 5 月. 東京

20	原 倫世, 横田 海友, 清水 一磨, 浅井 孝仁, 山上 紘規, 三井 由加里, 榊田 志保, 倉橋 清衛, 乙田 敏城, 湯浅 智之, 黒田 暁生, 遠藤 逸朗, 松久 宗英, 栗飯原 賢一: 糖尿病患者における可溶型 DPP-4/CD26 と動脈硬化指標との関連, 第 67 日本糖尿病学会学術集会, 2024 年 5 月, 東京
21	金子 遥祐, 河田 沙紀, 森 建介, 細木 美苗, 堀 太貴, 辻 誠士郎, 乙田 敏城, 湯浅 智之, 中村 信元, 栗飯原 賢一: 赤血球の mean corpuscular volume と代謝異常関連脂肪肝疾患の連関解析, 第 97 回日本内分泌学会学術総会 2024 年 6 月, 横浜
22	栗飯原 賢一, 三宅 南帆, 辻 誠士郎, 河田 沙紀, 中村 信元, 乙田 敏城, 湯浅 智之: 2 型糖尿病患者の糖尿病性腎臓病における推定食塩摂取量の意義, 第 97 回日本内分泌学会学術総会 2024 年 6 月, 横浜
23	堀 太貴, 石田 晃基, 稲葉 香織, 稲葉 圭佑, 金子 遥祐, 細木 美苗, 森 建, 栗飯原 賢一, 中村 信元: 内科救急疾患患者における Respiratory adjusted shock index の有用性, 第 121 回日本内科学会総会・講演会, 2024 年 4 月, 東京
24	辻 誠士郎, 河田 沙紀, 村井 純平, 乙田 敏城, 湯浅 智之, 中村 信元, 滝下 誠, 栗飯原 賢一: 2 型糖尿病患者における年間腎機能変化と dehydroepiandrosterone sulfate(DHEAS)の連関解析, 第 121 回日本内科学会総会・講演会, 2024 年 4 月, 東京
25	金子 遥祐, 森 建介, 堀 太貴, 細木 美苗, 辻 誠士郎, 河田 沙紀, 乙田 敏城, 湯浅 智之, 中村 信元, 栗飯原 賢一: 代謝異常関連脂肪肝疾患における mean corpuscular volume の意義, 第 121 回日本内科学会総会・講演会, 2024 年 4 月, 東京
26	河野 豊, 四柳宏, 江口ゆういちろう, 湯本浩通, 舞田健夫, 高山哲治, 歯科領域における肝炎対策の実態調査と課題解決について, 第 60 回日本肝臓学会総会 特別企画 3 肝がんゼロを目指した肝炎等克服政策研究の成果(疫学、検査、連携、人材育成、人権、政策)SS3-6 2024 年 6 月 13-14 日 熊本
27	立木佐知子, 福田直也, 田中宏典, 山田眞一郎, 河野 豊, 島田光生 本県における肝炎医療コーディネータースキルアップ研修会の変遷に関する検討 第 60 回日本肝臓学会総会 特別企画 4 肝炎医療コーディネーターのスキルアップを考える～HCV が制御可能になった今～SS4-1-14 2024 年 6 月 13-14 日 熊本
28	八木 秀介, 坂東 遼, 山口 浩司, 添木 武, 赤池 雅史, 若槻 哲三, 佐田 政隆: 腎血管性高血圧を合併した左室駆出率の保たれた心不全の 1 例, 第 130 回日本内科学会四国地方会 2024 年 6 月 16 日 徳島
29	八木 秀介, 添木 武, 赤池 雅史, 佐田 政隆: 高血圧患者における塩分摂取量の特徴の検討 第 130 回日本内科学会四国地方会 2024 年 6 月 16 日 徳島
30	西條 良仁, 山田 博胤, Zheng Robert, 高橋 智紀, 坂東 遼, 高橋 智子, 原 知也, 門田 宗之, 川端 豊, 上野 理絵, 松浦 朋美, 伊勢 孝之, 山口 浩司, 八木 秀介, 添木 武, 若槻 哲三, 笹 聡一郎, 滝沢 宏光, 佐田 政隆: Mechanical circulatory support を要した重症がん治療関連心機能障害の 1 例, 第 124 回日本循環器学会中国・四国合同地方会 2024 年 6 月 22-23 日 広島
31	西條 良仁, 山田 博胤, Zheng Robert, 高橋 智紀, 坂東 遼, 高橋 智子, 原 知也, 門田 宗之, 川端 豊, 上野 理絵, 松浦 朋美, 伊勢 孝之, 山口 浩司, 八木 秀介, 添木 武, 若槻 哲三, 笹 聡一郎, 滝沢 宏光, 佐田 政隆: 心室中隔欠損症・感染性心内膜炎を合併した大動脈縮窄症による二次性高血圧症の一例, 第 124 回日本循環器学会中国・四国合同地方会 2024 年 6 月 22-23 日 広島
32	ツェンソム ムンツェツェグ, 八木 秀介, 伊勢 孝之, 川端 豊, 門田 宗之, 山口 浩司, 山田 博胤, 添木 武, 若槻 哲三, 佐田 政隆: 経カテーテル的大動脈弁置換術後血清 Lp[a]の上昇は予後不良のリスクファクター, 第 45 回日本循環制御医学会総会・学術集会 2024 年 6 月 28-29 日(土) 徳島
33	Takahashi T, Soeki T, Tezuka K, Matsuura T, Sata M: A case of Tetralogy of Fallot in which a 3D sheath was useful for CRT-D system implantation. 第 70 回日本不整脈心電学会学術集会 2024 年 7 月 18-20 日 金沢
34	伊藤 直司, 西條 良仁, 手束 一貴, 高橋 智子, 谷 彰浩, 坂東 遼, ロバート ゼング, 高橋 智紀, 門田 宗之, 川端 豊, 上野 理絵, 原 知也, 松浦 朋美, 伊勢 孝之, 山口 浩司, 八木 秀介, 山田 博胤, 添木 武, 若槻 哲三, 松本 遼太, 秦 広樹, 佐田 政隆: 健康診断を契機に発見された巨大冠動脈瘤の一例, 第 269 回徳島医学会学術集会 2024 年 7 月 21 日 徳島

35	高橋 智子, 添木 武, 手束 一貴, 松浦 朋美, 佐田 政隆 : 再発を繰り返す長期持続性心房細動に対するケミカルアブレーションの治療成績. 日本不整脈心電学会第4回中国・四国支部地方会 2024年10月26日 高知
36	手束 一貴, 添木 武, 高橋 智子, 松浦 朋美, 佐田 政隆 : 上大静脈隔離術施行後に洞機能低下から接合部調律をきたした1例. 日本不整脈心電学会第4回中国・四国支部地方会 2024年10月26日 高知
37	門田 宗之, 八木 秀介, 伊勢 孝之, 高橋 智紀, 西條 良仁, 上野 理絵, 川端 豊, 原 知也, 松浦 朋美, 山口 浩司, 山田 博胤, 添木 武, 若槻 哲三, 赤木 達, 赤木 禎治, 佐田 政隆 : Treat & Repair を施行した Eisenmenger 症候群を呈する巨大心房中隔欠損症の一例. 第125回日本循環器学会四国地方会 2024年12月7日 松山
38	坂東 遼, 川端 豊, 手束 一貴, 高橋 智子, 谷 彰浩, Zheng Robert, 高橋 智紀, 西條 良仁, 原 知也, 門田 宗之, 上野 理絵, 松浦 朋美, 伊勢 孝之, 山口 浩司, 八木 秀介, 山田 博胤, 添木 武, 若槻 哲三, 佐田 政隆 : 冠攣縮が器質的狭窄進行に寄与したと考えられる一例. 第125回日本循環器学会四国地方会 2024年12月7日 松山
39	高橋 智子, 手束 一貴, 松浦 朋美, 添木 武, 佐田 政隆 : 若手研究者奨励賞(YIA) セッション 心房細動発症予測因子としての NAFLD 関連スコアの有用性. 第125回日本循環器学会四国地方会 2024年12月7日 松山
40	相原 弘幸, 坂東 遼, 松本 遼太, 曾我部 公子, Zheng Robert, 高橋 智紀, 西條 良仁, 原 知也, 門田 宗之, 川端 豊, 上野 理絵, 松浦 朋美, 伊勢 孝之, 山口 浩司, 八木 秀介, 山田 博胤, 添木 武, 若槻 哲三, 藤井 志朗, 秦 広樹, 佐田 政隆 : 血友病A患者における重症三枝病変に対する冠動脈バイパス術の一例. 第125回日本循環器学会四国地方会 2024年12月7日 松山
41	伊藤 直司, 八木 秀介, 佐田 政隆, 若槻 哲三, 添木 武, 山田 博胤, 山口 浩司, 高橋 智子, 手束 一貴, 松浦 朋美 : ペースメーカー電池交換術後に発症した血管性浮腫の1例. 第131回日本内科学会 四国地方会 2024年12月15日 松山
42	Tomoko Takahashi, Takeshi Soeki, Tomomi Matsuura, Kazuki Tezuka, Tomonori Takahashi, Yoshihito Saijo, Yutaka Kawabata, Muneyuki Kadota, Tomoya Hara, Rie Ueno, Takayuki Ise, Koji Yamaguchi, Shusuke Yagi, Hirotsugu Yamada, Tetsuzo Wakatsuki, Masataka Sata: Cell-free circulating mitochondrial DNA levels are associated with the recurrence of atrial fibrillation after catheter ablation for atrial fibrillation. 第89回日本循環器学会学術集会 2025年3月28-30日 横浜
43	野村 侑香, 西尾 進, 野中 蓮, 山口 夏美, 平田 有紀奈, Robert Zheng, 高橋 智紀, 西 條良仁, 松浦 朋美, 添木 武, 佐田 政隆, 山田 博胤: 人工知能を活用した全自動心エコー図画像解析システムの左室肥大の診断精度に関する検討. 第89回日本循環器学会学術集会 2025年3月28-30日 横浜
44	野中 蓮, 西尾 進, 野村 侑香, 山口 夏美, 平田 有紀奈, Robert Zheng, 高橋 智紀, 西 條良仁, 松浦 朋美, 添木 武, 佐田 政隆, 山田 博胤: 心房細動アブレーション後における左房機能指標の検討. 第89回日本循環器学会学術集会 2025年3月28-30日(日) 横浜
45	新家 崇義. ウイルス感染症の画像診断. 第268回徳島医学会学術集会. 2024年03月10日. 徳島市大塚講堂
46	平岡淳一郎, 新井悠太, 岩本誠司, 岡田直子, 松下知樹, 新家崇義, 原田雅史, 大豆本圭, 楠原義人, 曾我部公子, 藤井志朗. 後天性 von Willebrand 症候群により術後止血に難渋した1例. 第268回徳島医学会学術集会. 2024年03月10日. 徳島市大塚講堂
47	音見暢一, 大塚秀樹, 岡田直子, 平岡淳一郎, 松下知樹, 廣島由夏, 新井悠太, 新家崇義, 原田雅史. フォンタン術後症候群の臓器合併症に核医学で迫る. 第83回日本医学放射線学会総会. 2024年4月11日-14日. パシフィコ横浜.
48	簗手鴻, 音見暢一, 岡田直子, 松下知樹, 平岡淳一郎, 笠井亮佑, Leah Bollos, 高岡友紀子, 三橋遼太, 新井悠太, 新家崇義, 大塚秀樹, 原田雅史. 下垂体の FDG 集積亢進の所見が甲状腺機能低下に伴う TSH 分泌亢進を反映していると考えられた3例. 第140回日本放射線学会中国・四国地方会. 2024年6月8日. 出雲市 ニューウェルシティ出雲
49	新家崇義, 松下知樹, 音見暢一, 久保典子, 原田雅史, 坂東良美, 上原久典, 新家朱理, 西村正人, 乾宏彰, 香川智洋, 吉田加奈子, 岩佐武. 卵巣腫瘍における Dynamic F18 FDG PET/CT の有用性の初期検討. 第269回徳島医学会学術集会. 2024年7月21日. 徳島市 大塚講堂.

50	板東孝典, 音見暢一, 笠井亮佑, 大谷環樹, 松田憲武, 新家崇義, 國金大和, 阿實翔太, 大塚秀樹, 原田雅史. 123I-MIBG を用いた副腎髄質シンチグラフィ定量評価の試み. 第 5 回日本核医学会中国・四国支部会. 2024 年 7 月 27 日. 松山市 松山市総合コミュニティセンター.
51	新家崇義, 原田雅史. 腹膜・間膜の画像診断. 第 60 回日本医学放射線学会秋季臨床大会. 2024 年 10 月 18 日-20 日. 福岡市 福岡国際会議場.
52	新家崇義(徳島大), 音見暢一, 松下知樹, 平岡淳一郎, 高尾正一郎, 久保典子, 西庄俊彦, 西良浩一, 石澤啓介, 原田雅史. Dynamic carbon-11-labeled methionine PET/CT for the clinical diagnosis of musculoskeletal lesions. 第 60 回日本医学放射線学会秋季臨床大会. 2024 年 10 月 18 日-20 日. 福岡市 福岡国際会議場.
53	新家崇義(徳島大), 新家朱理, 松下知樹, 音見暢一, 久保典子, 乾 宏彰, 吉田加奈子, 西村正人, 岩佐 武, 原田雅史. Dynamic F-18 FDG PET/CT for the clinical diagnosis of ovarian lesions. 第 60 回日本医学放射線学会秋季臨床大会. 2024 年 10 月 18 日-20 日. 福岡市 福岡国際会議場.
54	宇山直人, 新家崇義, 原田雅史. 虚血性腸疾患及び腸間膜虚血の画像診断. 第 60 回日本医学放射線学会秋季臨床大会. 2024 年 10 月 18 日-20 日. 福岡市 福岡国際会議場.
55	松本真奈, 新家崇義, 音見暢一, 亀井友志, 古谷光平, 簗手 鴻, 岡田直子, 平岡淳一郎, 松下知樹, 原田雅史. 肋骨結節による反応性胸膜肥厚の 4 例. 第 60 回日本医学放射線学会秋季臨床大会. 2024 年 10 月 18 日-20 日. 福岡市 福岡国際会議場.
56	簗手鴻, 音見暢一, 大塚秀樹, 亀井友志, 古谷光平, 松本真奈, 岡田直子, 松下知樹, 平岡淳一郎, 高岡友紀子, 三橋遼太, 新家崇義, 原田雅史. 下垂体に FDG 集積を認めたら何を考えるか? 第 60 回日本医学放射線学会秋季臨床大会. 2024 年 10 月 18 日-20 日. 福岡市 福岡国際会議場.
57	音見暢一, 大塚秀樹, 笠井亮佑, 大谷環樹, BollosLeah, 岡田直子, 松下知樹, 平岡淳一郎, 高岡友紀子, 三橋遼太, 新家崇義, 原田雅史. 肺高血圧臨床分類における肺換気血流シンチグラフィの有用性について. 第 60 回日本医学放射線学会秋季臨床大会. 2024 年 10 月 18 日-20 日. 福岡市 福岡国際会議場.
58	古谷光平, 新家崇義, 亀井友志, 松本真奈, 簗手 鴻, 岡田直子, 平岡淳一郎, 松下知樹, 音見暢一, 大塚秀樹, 原田雅史. 腹部臓器に発生する神経内分泌腫瘍の画像初見 - F-18 FDG PET/CT を中心に -. 第 60 回日本医学放射線学会秋季臨床大会. 2024 年 10 月 18 日-20 日. 福岡市 福岡国際会議場.
59	西正暁, 島田光生, 吉川幸造, 高須千絵, 和田佑馬, 徳永卓哉, 中尾寿宏, 柏原秀也, 良元俊昭. 食道胃接合部腺癌に対する経裂孔ロボット支援手術の手術手技 ワークショップ 第 110 回日本消化器病学会総会 2024 年 5 月 9-11 日 徳島
60	西正暁, 高須千絵, 和田佑馬, 吉川幸造, 徳永卓哉, 中尾寿宏, 柏原秀也, 良元俊昭, 島田光生. T3 以深の高度進行胃癌に対するロボット手術の有用性 -ロボット vs.腹腔鏡-第 79 回日本消化器外科学会総会 2024 年 7 月 17-19 日 下関
61	西正暁, 高須千絵, 和田佑馬, 徳永卓哉, 柏原秀也, 石川大地, 良元俊昭, 島田光生. ロボット支援胃癌手術の進歩 - da Vinci Surgical System and HinotoriTM-第 62 回日本癌治療学会学術集会 2024 年 10 月 24-26 日 福岡
62	西正暁, 高須千絵, 和田佑馬, 徳永卓哉, 柏原秀也, 石川大地, 良元俊昭, 宮崎克己, 島田光生. 食道胃接合部腺癌に対する経裂孔ロボット支援手術-Ovir を用いた食道空腸吻合- パネルディスカッション 第 86 回日本臨床外科学会学術集会 2024 年 11 月 21-23 日 宇都宮
63	西正暁, 高須千絵, 和田佑馬, 徳永卓哉, 柏原秀也, 石川大地, 良元俊昭, 島田光生. Hinotori を用いたロボット支援胃癌手術-Knack ant pitfall- 第 37 回日本内視鏡外科学会総会 2024 年 12 月 5-7 日 福岡
64	Ryo Bando, Takayuki Ise, Yutaka Kawabata, Muneyuki Kadota, Yoshihito Saijo, Masaki Yamamoto, Ryota Matsumoto, Robert Zheng, Tomonori Takahashi, Tomoya Hara, Rie Ueno, Tomomi Matsuura, Koji Yamaguchi, Shusuke Yagi, Hirotsugu Yamada, Takeshi Soeki, Tetsuzo Wakatsuki, Hiroki Hata, Masataka Sata. A Case of Emergency Coronary Artery Bypass Grafting for Acute Occlusion of Right Coronary Artery after TAVI. 第 89 回日本循環器学会学術集会 2025 年 3 月 28-30 日 横浜
65	Yoshihito Saijo, Hirotsugu Yamada, Akihiro Tani, Robert Zheng, Tomonori Takahashi, Natsumi Yamaguchi, Susumu Nishio, Kazuki Tezuka, Tomoko Takahashi, Ryo Bando, Tomoya Hara, Muneyuki Kadota, Yutaka Kawabata, Rie Ueno, Tomomi Matsuura, Takayuki Ise, Koji Yamaguchi, Shusuke Yagi, Takeshi Soeki, Tetsuzo Wakatsuki, Masataka Sata. Prognosis of ATTR-CM Patients with Non-responders to Tafamidis. 第 89 回日本循環器学会学術集会 2025 年 3 月 28-30 日 横浜

66	川端 豊, 山口 浩司, 若槻 哲三, 坂東 遼, 高橋 智紀, 西條 良仁, 上野 理絵, 門田 宗之, 松浦 朋美, 伊勢 孝之, 八木 秀介, 山田 博胤, 添木 武, 佐田 正隆. Quantitative and Qualitative Assessment of Coronary Plaques According to the Stages of Progression in Fresh Cadavers. 第 89 回日本循環器学会 学術集会 2025 年 3 月 28-30 日 横浜
----	---

<論文発表>
(英文原著)

1	Hori T, Shimizu T, Ando H, Okada N, Yamagami H, Yasui S, Hosoki M, Tojima A, Otda T, Yuasa T, Aihara KI, Takishita M, Yoshida S, Abe M, Ishida T, Nakamura S. Humoral immune response against SARS-CoV-2 and polyethylene glycol elicited by anti-SARS-CoV-2 mRNA vaccine, and effect of pre-existing anti-polyethylene glycol antibody in patients with hematological and autoimmune diseases. Heliyon. 2024 May 17;10(10):e31489.
2	Hori T, Aihara K, Watanabe T, Inaba K, Inaba K, Kaneko Y, Kawata S, Kawahito K, Kita H, Shimizu K, Hosoki M, Mori K, Kageji T, Uraoka H, Nakamura S. The Respiratory Adjusted Shock Index at Admission Is a Valuable Predictor of In-Hospital Outcomes for Elderly Emergency Patients with Medical Diseases at a Japanese Community General Hospital. J Clin Med. 2024 Aug 18;13(16):4866.
3	Hori T, Aihara KI, Ishida K, Inaba K, Inaba K, Kaneko Y, Kawahito K, Bekku S, Hosoki M, Mori K, Itami K, Katsuse M, Hanaoka Y, Kageji T, Uraoka H, Nakamura S. Usefulness of Palliative Prognostic Index, Objective Prognostic Score, and Neutrophil-Lymphocyte Ratio/Albumin Ratio As Prognostic Indicators for Patients Without Cancer Receiving Home-Visit Palliative Care: A Pilot Study at a Community General Hospital. Palliat Med Rep. 2024 Apr 4;5(1):142-149.
4	Inoue Y, Tenshin H, Teramachi J, Sumitani R, Oda A, Maeda Y, Oura M, Sogabe K, Maruhashi T, Takahashi M, Fujii S, Nakamura S, Miki H, Hara T, Endo I, Kagawa K, Ozaki S, Hiasa M, Harada T, Abe M. Elotuzumab-mediated ADCC with Th1-like $V\gamma 9V\delta 2$ T cells to disrupt myeloma-osteoclast interaction. Cancer Sci. 2025 Feb;116(2):559-563.
5	Oura M, Sumitani R, Maeda Y, Yagi H, Takahashi M, Harada T, Fujii S, Miki H, Hori T, Murai J, Kagawa K, Abe M, Nakamura S. Acute myeloid leukemia developed through myeloproliferative features during immunosuppressive therapy for juvenile idiopathic arthritis. J Med Invest. 2024;71(3.4):335-339.
6	Maeda Y, Takao S, Morita S, Kondo S, Yamashita M, Sumitani R, Oura M, Sogabe K, Takahashi M, Fujii S, Harada T, Miki H, Abe M, Nakamura S. Quality of skeletal muscles during allogeneic stem-cell transplantation: a pilot study. BMJ Support Palliat Care. 2024 Oct 1:spcare-2024-005070.
7	Sumitani R, Higashi K, Oura M, Maeda Y, Yagi H, Sogabe K, Takahashi M, Harada T, Fujii S, Miki H, Abe M, Nakamura S. Effective Intractable Chylous Ascites Treatment by Lymphangiography with Lipiodol in a Patient with Follicular Lymphoma. Intern Med. 2024 Sep 27.
8	Inoue Y, Oda A, Maeda Y, Sumitani R, Oura M, Sogabe K, Maruhashi T, Takahashi M, Fujii S, Nakamura S, Miki H, Hiasa M, Teramachi J, Harada T, Abe M. Ex vivo expansion and activation of $V\gamma 9V\delta 2$ T cells by CELMoDs in combination with zoledronic acid. Int J Hematol. 2024 Jun;119(6):626-630.
9	Nakamura S, Miki H.: Discrimination between Toxoplasmic Encephalitis and Central Nervous System Lymphoma: An Updated Review. J Hematol Thrombo Dis. 12:602.
10	Nakamura S, Hara K, Kobayashi T, Sumitani R, Oura M, Maeda Y, Sogabe K, Yagi H, Takahashi M, Fujii S, Harada T, Bando Y, Abe M, Miki H.: Toxoplasmic encephalitis with high 201TI uptake and retention mimicking malignant lymphoma in a patient with human immunodeficiency virus infection. Parasitol Int. 2024 Aug;101:102895.
11	Hori T, Nakamura S, Aihara KI: Clinical Significance of Phase Angle and Extracellular Water-to-Total Body Water Ratio Measured by Bioelectrical Impedance Analysis. J Leuk. 12:368.
12	Takahashi M, Kondo S, Kagawa K, Nakamura M, Maeda Y, Sumitani R, Yagi H, Oura M, Sogabe K, Harada T, Fujii S, Miki H, Endo I, Abe M, Nakamura S. Skeletal muscle mass during chemotherapy for haematological malignancies: a retrospective study. BMJ Support Palliat Care. 2024 May 17;14(2):195-199.

13	Sugasaki M, Nakamura S, Teramoto K, Urushihara M, Inoue Y, Nakao T, Nishioka Y, Sata M. Lupus anticoagulant hypoprothrombinemia syndrome with multiple and high-titer antiphospholipid antibodies strongly interfered with coagulation assays. <i>Blood Coagul Fibrinolysis</i> . 2024 Apr 1;35(3):149–153.
14	Maruhashi T, Miki H, Sogabe K, Oda A, Sumitani R, Oura M, Takahashi M, Harada T, Fujii S, Nakamura S, Kurahashi K, Endo I, Abe M. Acute suppression of translation by hyperthermia enhances anti-myeloma activity of carfilzomib. <i>Int J Hematol</i> . 2024 Mar;119(3):291–302.
15	Sogabe K, Nakamura S, Higa Y, Miki H, Oda A, Maruhashi T, Sumitani R, Oura M, Takahashi M, Nakamura M, Maeda Y, Hara T, Yamagami H, Fujii S, Kagawa K, Ozaki S, Kurahashi K, Endo I, Aihara KI, Nakaue E, Hiasa M, Teramachi J, Harada T, Abe M. Acute accumulation of PIM2 and NRF2 and recovery of β 5 subunit activity mitigate multiple myeloma cell susceptibility to proteasome inhibitors. <i>Int J Hematol</i> . 2024 Mar;119(3):303–315.
16	Kawano Y, Watanabe N, Nishiyama M, Ohmura T, Mihara H, Ono K, Tanaka M, Sato Y, Takeda H, Takayama T. Feasibility and safety of food containing <i>Acanthopanax senticosus</i> for treating patients with cancer-related fatigue. <i>Palliat Med Rep</i> . 5(1):381–386,2024.
17	Kawano Y, Tanaka M, Satoh Y, Sugino S, Suzuki J, Fujishima M, Okumura E, Takekoshi H, Uehara O, Sugita S, Abiko Y, Tomonari T, Tanaka H, Takeda H, Takayama T. <i>Acanthopanax senticosus</i> ameliorates steatohepatitis through HNF4 alpha pathway activation in mice. <i>Sci Rep</i> . 14(1):110, 2024.
18	Muramatsu J, Arihara Y, Yoshida M, Kubo T, Nakamura H, Ishikawa K, Fujita H, Sugita S, Konno T, Kojima T, Kawano Y, Kobune M, Takada K. Gap junction beta-4 accelerates cell cycle progression and metastasis through MET-AKT activation in pancreatic cancer. <i>Cancer Sci</i> . 115(5):1564–1575, 2024.
19	Sogabe M, Okahisa T, Kagawa M, Kashihara T, Fujimoto S, Kawaguchi T, Yokoyama R, Kagemoto K, Tanaka H, Kida Y, Tomonari T, Kawano Y, Sato Y, Nakasono M, Takayama T. Impact of alcohol consumption on metabolic dysfunction-associated fatty liver disease development and remission: A longitudinal cohort study. <i>Eur J Clin Invest</i> . 54(9):e14221, 2024.
20	Sogabe M, Okahisa T, Kagawa M, Sei M, Ueda H, Yokoyama R, Kagemoto K, Tanaka H, Kida Y, Nakamura F, Tomonari T, Okamoto K, Kawano Y, Miyamoto H, Sato Y, Nakasono M, Takayama T. Association of metabolic dysfunction-associated steatotic liver disease with erosive esophagitis development: a longitudinal observational study. <i>J Gastroenterol Hepatol</i> . 39(6):1107–1114,2024.
21	Shinomiya R, Sato Y, Yoshimoto T, Kawaguchi T, Hirao A, Okamoto K, Kawano Y, Sogabe M, Miyamoto H, Takayama T. A case of treatment-resistant advanced gastric cancer with FGFR2 gene alteration successfully treated with pemigatinib. <i>Int Cancer Conf J</i> . 13(3):240–244, 2024.
22	Yamaguchi S, Maeda M, Oba K, Maimaituxun G, Arasaki O, Yagi S, Kusunose K, Soeki T, Yamada H, Fukuda D, Masuzaki H, Sata M, Shimabukuro M. Sex differences in the association between epicardial adipose tissue volume and left atrial volume index. <i>BMC Cardiovasc Disord</i> . 2024;24(1):46
23	Yamaguchi N, Hirata Y, Nishio S, Takahashi T, Saijo Y, Kadota M, Ise T, Yamaguchi K, Yagi S, Yamada H, Soeki T, Wakatsuki T, Sata M, Kusunose K. Pulmonary Pressure-flow responses to exercise in heart failure treated with angiotensin receptor neprilysin inhibitor. <i>Int J Cardiol</i> . 2024;400:131789
24	Yagi S, Miyamoto R, Tasaki M, Morino H, Otani R, Kadota M, Ise T, Yamazaki H, Kusunose K, Yamaguchi K, Yamada H, Soeki T, Wakatsuki T, Fukuda D, Ueda M, Sata M. The APOA1 p.Leu202Arg variant potentially causes autosomal recessive cardiac amyloidosis. <i>Hum Genome Var</i> . 2024;11(1):30
25	Yagi I, Yagi S, Nakanishi K, Tezuka K, Matsuyama K, Aibara Y, Ishida T, Yoneda H, Yamamoto M, Ise T, Yamaguchi K, Yamada H, Soeki T, Wakatsuki T, Kitagawa T, Nishioka Y, Sata M. Critical Limb Threatening Ischemia Due to Severe Polyarteritis Nodosa—A Case Report. <i>Intern Med</i> . 2024
26	Hayashi M, Soeki T, Noda Y, Tamagami D, Morinishi K, Chikata Y, Takahashi T, Matsuura T, Ise T, Yamaguchi K, Yagi S, Yamada H, Wakatsuki T, Sata M. Risk Factors for Intraoperative Instability in Sedated Patients Undergoing Pulmonary Vein Isolation Ablation. <i>Int Heart J</i> . 2024;65(6):1020–1024
27	Fujiwara M, Ito H, Yamada H, Soeki T: A case of Takotsubo syndrome with polymorphic ventricular tachycardia and shark fin electrocardiogram developed during hospitalization for occlusive arterial disease of the lower extremities. <i>Journal of Cardiology Cases</i> 2024;30:107–110
28	Mima M, Sato S, Shinya T, Naito N, Shoji T, Harada S, Suzue R, Murakami K, Koyama K, Nishioka Y. Characteristics of chest high-resolution computed tomography in patients with anti-aminoacyl-tRNA synthetase antibody-positive interstitial lung disease. <i>Sarcoidosis Vasc Diffuse Lung Dis</i> . 2024 Mar

	26;41(1):e2024005. doi: 10.36141/svdlld.v41i1.14144.
29	Yoichi Otomi, Natsumi Teshima, <u>Takayoshi Shinya</u> , Hideki Otsuka, Masafumi Harada. 11C-Methionine PET/CT in Cryptococcus Meningoencephalitis. Clin Nucl Med. 2025 Feb 1;50(2):181–182..
30	<u>Nishi M</u> , Nakasu C, Yoshimoto T, Tokunaga T, Kashiara TH, Takasu C, et al. Light-emitting diode irradiation targets aerobic glycolysis in cancer-associated fibroblasts to inhibit metabolic coupling with colon cancer cells. <i>Ann Gastroenterol Surg</i> . 2025;00:1–8. https://doi.org/10.1002/ags3.70004
31	<u>Nishi M</u> , Yamashita S, Takasu C, Wada Y, Yoshikawa K, Tokunaga T, Nakao T, Kashiara H, Yoshimoto T, Shimada M. Role of mast cell in locally advanced rectal cancer treated with neoadjuvant chemoradiotherapy. <i>BMC Cancer</i> . 2025 Jan 17;25(1):99.
32	Kashiara H, Tokunaga T, Yoshimoto T, Wada Y, Takasu C, <u>Nishi M</u> , Shimada M. Feasibility of hybrid robotic rectal surgery. <i>Surg Today</i> . 2025 Feb 8. doi: 10.1007/s00595-025-03001-5
33	Wada Y, <u>Nishi M</u> , Tokunaga T, Kashiara H, Takasu C, Yoshimoto T, Shimada M. Alteration of Apparent Diffusion Coefficient Measurements Predict Survival Outcomes During Neoadjuvant Chemoradiotherapy in Locally Advanced Rectal Cancer. <i>In Vivo</i> . 2025 Mar–Apr;39(2):927–935.
34	Takasu C, Morine Y, Yoshikawa K, Nakao T, Tokunaga T, <u>Nishi M</u> , Kashiara H, Wada Y, Yoshimoto T, Shimada M Role of stromal PD-L1 expression in colorectal liver metastasis <i>BMC Cancer</i> . 2024 Jan 17;24(1):97. doi: 10.1186/s12885-024-11869-8
35	Takasu C, <u>Nishi M</u> , Yoshikawa K, Tokunaga T, Kashiara H, Wada Y, Yoshimoto T, Shimada M Preoperative evaluation to determine the difficulty of No. 6 lymphadenectomy in laparoscopic gastrectomy <i>BMC Surg</i> . 2024 Feb 22;24(1):69.
36	Tokunaga T, Kashiara H, Yoshikawa K, Nakao T, <u>Nishi M</u> , Takasu C, Wada Y, Yoshimoto T, Shimada M Comparison of the short-term surgical outcomes of lateral lymph node dissection for low rectal cancer using a robotic-assisted transabdominal approach alone or supported by a transanal approach <i>Surg Endosc</i> . 2024 Apr;38(4):2070–2077
37	Iwakawa Y, <u>Nishi M</u> , Wada Y, Yoshikawa K, Takasu C, Tokunaga T, Nakao T, Kashiara H, Yoshimoto T, Noma T, Shimada M Feasibility of laparoscopic and endoscopic cooperative surgery for gastric gastrointestinal stromal tumor with tumor diameter of >5 cm <i>J Med Invest</i> . 2024;71(1.2):148–153.
38	Nakao T, Shimada M, Yoshikawa K, Tokunaga T, <u>Nishi M</u> , Kashiara H, Takasu C, Wada Y, Yoshimoto T Number of Healthy Teeth Can Predict the Response of Rectal Cancer to Chemoradiotherapy: A Retrospective Study <i>Am Surg</i> . 2024 Apr 18;31348241244628.
39	Yoshimoto T, <u>Nishi M</u> , Okikawa S, Yoshikawa K, Tokunaga T, Nakao T, Takasu C, Kashiara H, Wada Y, Noma T, Shimada M Blue light irradiation inhibits the M2 polarization of the cancer-associated macrophages in colon cancer <i>BMC Cancer</i> . 2024 May 31;24(1):664
40	Nakao T, Shimada M, Yoshikawa K, Tokunaga T, <u>Nishi M</u> , Kashiara K, Takasu C, Wada Y, Yoshimoto T Prognostic impact of the combination of p16INK4a, p21 and Immunoscore in rectal cancer <i>Int J Clin Oncol</i> . 2024 Aug;29(8):1152–1160
41	Wada Y, <u>Nishi M</u> , Yoshikawa K, Takasu C, Tokunaga T, Nakao T, Kashiara H, Yoshimoto T, Shimada M Circulating Exosomal MicroRNA Signature Predicts Peritoneal Metastasis in Patients with Advanced Gastric Cancer <i>Ann Surg Oncol</i> . 2024 Sep;31(9):5997–6006.
42	<u>Nishi M</u> , Takasu C, Wada Y, Yoshikawa K, Tokunaga T, Nakao N, Kashiara H, Yoshimoto T, Shimada M Impact of robotic gastrectomy in patients with primary T3 or more advanced gastric cancer <i>Asian J Endosc Surg</i> . 2024 Oct;17(4):e13383
43	Nakao T, Shimada M, Tokunaga T, <u>Nishi M</u> , Kashiara H, Takasu C, Wada Y, Yoshimoto T Feasibility of robot-assisted surgery for defining circumferential resection margins for rectal cancer: a retrospective study <i>World J Surg Oncol</i> . 2024 Nov 23;22(1):310.
44	Kashiara H, Okikawa S, Morine Y, Yoshikawa K, Tokunaga T, <u>Nishi M</u> , Takasu C, Nishiyama M, Zushi M, Shimada M Impact of Daikenchuto (TU-100) on the early postoperative period in duodenal-jejunal bypass <i>J Med Invest</i> . 2024;71(3.4):210–218. doi: 10.2152/jmi.71.210.

45	Yagi S, Kadota M, Bando R, Miyamoto R, Morino H, Kakutani A, Kubo Y, Ise T, Ueno R, Hara T, Kusunose K, Yamaguchi K, Yamada H, <u>Soeki T</u> , Wakatsuki T, Fukuda D, Sata M. Pulmonary Arterial Hypertension in Neurofibromatosis Type 1: A Case with a Novel NF1 Gene Mutation. Intern Med. 2025;64(5):725–728.
46	Tomidokoro D, Nakamura T, Oka S, Miyazaki Y, Wakamiya A, Ueda N, Nakajima K, Kamakura T, Wada M, Ishibashi K, Inoue Y, Miyamoto K, Nagase S, Kitada S, Sakaue Y, Shiraishi H, Kabutoya T, Takami K, Miyoshi M, Takahashi N, <u>Soeki T</u> , Hiroi Y, Asano Y, Ohno S, Kusano K, Aiba T. Yield of Genetic Testing for Long-QT Syndrome in Elderly Patients With Torsades de Pointes. Circ Genom Precis Med. 2024;17(6):e004671.

(和文総説)

なし

(和文原著)

1	三宅 南帆, 辻 誠士郎, 河田 沙紀, <u>中村 信元</u> , 乙田 敏城, 湯浅 智之, 栗飯原 賢一: 2型糖尿病における推定塩分摂取量に関わる因子の探索. 四国医学雑誌, Vol.80, No.3, 4, 107–112, 2024年.
2	新家崇義, 原田雅史, 西岡安彦. ウイルス感染症の胸部画像診断. 四国医学雑誌. 第 80 巻 第 1、2号. 令和 6 年 6 月 21 日、Jun21,2024.

<著書>

なし

4 診療面

(1) 徳島大学病院での診療

① 内分泌・代謝内科

本講座特任教授の栗飯原は、再来外来診療を月 1 回(第 4 木曜日)、担当しており、糖尿病および内分泌・代謝疾患(間脳下垂体疾患・甲状腺疾患・副甲状腺疾患・副腎疾患・脂質異常症・高血圧症・尿酸代謝異常など)の専門診療を行っています。入院が必要な患者さんの診療に関しては、血液・内分泌代謝内科学スタッフのサポートを得て外来と緊密な連携のもとで、治療を行っています。

② 血液内科

徳島大学病院血液内科において、本講座特任教授の中村は外来診療を週 1 回(木曜日)、担当しており、血液疾患や HIV 感染症などの専門診療を行っています。再来患者さんの診療に加え、新患患者さんの予約・紹介受診が可能です。入院が必要な患者さんの診療に関しては、血液・内分泌代謝内科学スタッフのサポートを得て外来と緊密な連携のもとで、治療を行っています。

③ 循環器内科

本講座特任教授の添木は外来診療を週 1 回(火曜日)、担当しており、循環器、特に不整脈領域の専門診療を行っています。再来患者さんの診療に加え、新患患者さんの予約・紹介受診が可能です。また、入院加療としては、不整脈チームのチーフとして、頻脈性不整脈に対するカテーテルアブレーション、徐脈性不整脈・致死性不整脈に対するペースメーカー・植込み型除細動器(ICD)植込み術、難治性心不全に対する心臓再同期療法(CRT)などの高度医療に携わっています。

④ 消化器内科

本講座特任教授の河野は、外来診療を週 1 回(金曜日)担当しており、消化器、特に肝臓疾患の専門診療を行っています。再来患者さんの診療に加え、新患患者さんの予約・紹介受診が可能です。肝炎の原因診断および治療、肝臓のインターベンション治療(ラジオ波焼灼術、肝動脈塞栓術)や化学療法を行っています。

⑤ 食道・乳腺甲状腺外科

本講座特任助教の坂本は火曜日に呼吸器外科外来を、木曜日に甲状腺外来を担当しています。再来患者さんの診療に加え、新患患者さんの予約・紹介受診が可能です。呼吸器外科に関しては呼吸器内科と連携のもと、甲状腺に関しては、内分泌・代謝内科、放射線治療科と連携のもと、共に良性疾患から悪性腫瘍まで幅広く診療に当たっています。2 領域にわたって診療を行い、両者の専門知識を生かし学会発表も積極的に行っています(Gland Surgery 2024 Vol. 13 Issue 10 Pages 1846-1852)。

手術は月曜日、水曜日に肺癌手術を、火曜日に甲状腺手術を主に行っております。肺癌領域ではロボットを用いた低侵襲手術を積極的に導入しております。

⑥ 放射線科

本講座特任教授の新家は、月・火・水曜日は午前・午後、木曜日は午後、金曜日は午前に外来診療を担当しています。全身の臓器に生じる、良性病変から悪性腫瘍まで幅広い疾患を対象としており、CTやMRI、核医学、PET/CTなどマルチモダリティな総合画像診断を行い、読影レポート作成を行っております。

⑦ 消化器外科

本講座特任教授の西は月曜日・金曜日に外来を担当しています。手術は火曜日・木曜日に胃癌手術を主に行っており、最近ではロボット(da Vinci/hinotori)を用いた低侵襲手術を積極的に導入しています。また肥満症に対する減量手術も行っており、内科的な治療が困難な症例に対して内分泌内科と連携しながら治療をおこなっています。

(2) JA 徳島厚生連阿南医療センターでの診療

阿南医療センターでは、下表のスケジュールで初診および再来患者の外来診療を担当し、入院治療は常勤医と連携しながら行なっています。また循環器内科では、心房細動や発作性上室性頻拍に対するカテーテルアブレーション、徐脈性不整脈に対するペースメーカー植込み術、植込み型心電計、経食道心エコーなどの特殊検査も施行しています。このように、地域においても徳島大学病院と同様に高度な循環器診療を受けられるシステムづくりを目指しています。血液内科では、外来での積極的な外来化学療法その他、必要に応じて入院診療を行っております。消化器内科では、ウイルス肝炎の診断・治療や、肝癌で入院が必要な患者さんは、徳島大学消化器内科と連携して治療を行っています。消化器外科では徳島大学病院と同様の低侵襲な鏡視下手術を行っています。

	月	火	水	木	金
糖尿病内科・ 内分泌代謝内科	湯浅 智之	湯浅 智之	栗飯原 賢一	栗飯原 賢一	栗飯原 賢一
循環器内科					添木 武
血液内科	中村 信元		中村 信元		
消化器内科			河野 豊		
乳腺・甲状腺外科					坂本 晋一
消化器外科			西 正暁		
放射線科				新家 崇義	

(3) 美波町国民健康保険美波病院での診療

阿南医療センターに対する美波病院から診療支援要請に対応する目的で、本講座業務の一環として、栗飯原が火曜日の午前中に内科外来を行なっています。専門診療が必要な患者に対しては、阿南医療センター、県立海部病院、徳島赤十字病院、徳島大学病院に紹介し、診療連携体制をとっています。

5 社会貢献

講演活動・会議開催・患者会活動など

1. 2024 年 4 月 18 日
Freezor Xtra～有用な症例の検討～(WEB 講演会)
「上室性頻拍に対する冷凍エネルギーの使用経験」(講師:添木武)
2. 2024年 5 月 23 日
鳴門市医師会学術講演会
「生涯にわたる最適な心房細動診療を目指して」(講師:添木武)
3. 2024 年 6 月 1 日
徳島県薬草協会神山支部定例総会講演会
「糖尿病で起こる合併症と糖尿病治療の今」(講師:栗飯原賢一)
4. 2024 年 6 月 22 日
阿南医療センターひまわり会総会
「災害に対する糖尿病患者さんの心得と対処法」(講師:栗飯原賢一)
5. 2024 年 8 月 8 日
Diamond Seminar in 四国～内分泌疾患と糖尿病を診る～
「臓器保護・予後・安全性と高齢者糖尿病診療」(講師:栗飯原賢一)
6. 2024 年 9 月 3 日
DiaMond Live Seminar in 徳島
「糖尿病及び合併症の包括治療がもたらした福音」(講師:栗飯原賢一)
7. 2024 年 9 月 12 日
第2回眉山 CVD 症例検討会
「上室性頻拍に対し冷凍エネルギーが有用であった症例」(講師:添木武)
8. 2024 年 9 月 25 日 阿南健康づくりセンター
阿南市特定保健指導対象者講義
「受けただけではもったいない！～健診結果を活用しよう～」(講師:湯浅智之)
9. 2024 年 11 月 2 日
阿南医療センターひまわり会定例会
「糖尿病と歯周病の関係について学びましょう!」(講師:栗飯原賢一)

10. 2024 年 11 月 24 日
糖尿病フォーラム徳島 2024 (糖尿病劇場出演:栗飯原賢一)
11. 2024 年 11 月 29 日
ケレンディア®錠 WEB カンファレンス
「腎血管連関と塩分摂取からみた 2 型糖尿病合併症予防への対策」(講師:栗飯原賢一)
12. 2024 年 12 月 11 日 阿南健康づくりセンター
阿南市特定保健指導対象者講義
「受けただけではもったいない! ~健診結果を活用しよう~」(講師:湯浅智之)
13. 2025 年 1 月 16 日
真性多血症 forum in 四国 (パネリスト:中村信元)
14. 2025 年 1 月 18 日
第 11 回心電図道場
「刺激伝導系が分かると不整脈が分かるかも! ?」(講師:添木武)
15. 2025 年 1 月 22 日
出張肝臓教室 (講師:河野 豊)
16. 2025 年 1 月 25 日
第 7 回徳島市 糖尿病サポーター (TCDS) 養成研修会
「糖尿病の注射あれこれ」(講師:栗飯原賢一)
17. 2025 年 1 月 31 日
4orce 2025 ~四国不整脈カンファレンス~
「より良い突然死予防を考える」(ディスカッサント:添木武)
18. 2025 年 2 月 1 日
令和 6 年度 四国地域の HIV 診療・連携の向上を目指した研修会 (講師:中村信元)
19. 2025 年 2 月 3 日
血友病リハビリテーション連携の会 (講師:中村信元)
20. 2025 年 2 月 5 日 阿南健康づくりセンター
阿南市特定保健指導対象者講義
「受けただけではもったいない! ~健診結果を活用しよう~」(講師:湯浅智之)
21. 2025 年 2 月 12 日 阿南医療センター
阿南学術講演会
「糖尿病治療新時代の治療戦略を考える」(ディスカッサント:湯浅智之)

22. 2025 年 2 月 14 日

2024 年度 肥満・糖尿病研究クラスター・ミニリトリート（講座主催代表：栗飯原賢一）

23. 2025 年 3 月 令和 6 年度徳島県糖尿病療養指導士研修会

「高齢者の糖尿病管理」（講師：湯浅智之）

その他

1. 厚生労働行政推進調査事業費「肝炎等克服政策研究」令和 3 年度～

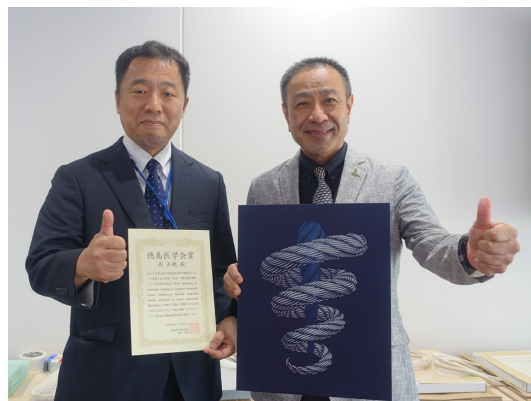
「オーダーメイドな肝炎ウイルス感染防止・重症化予防ストラテジーの確立に資する研究」研究分担者 河野 豊

2. 厚生労働行政推進調査事業費「肝炎等克服政策研究」令和 5 年度～

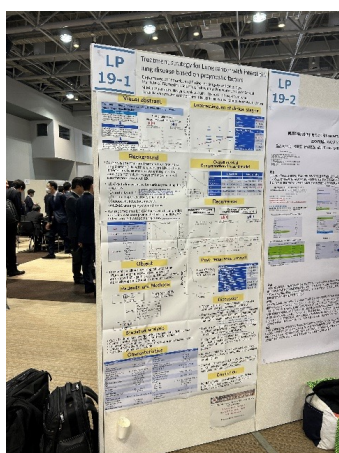
「多様な病態に対応可能な肝疾患のトータルケアに資する人材育成及びその活動の質の向上等に関する研究」研究分担者 河野 豊

5 活動写真

第52回徳島医学会賞受賞 西正暁

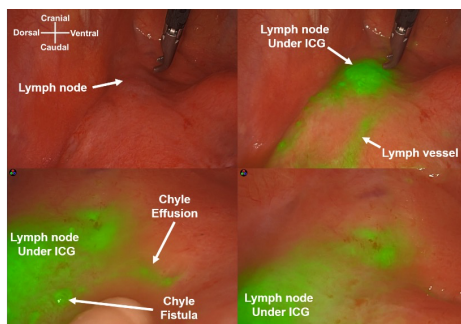


学会活動 坂本晋一

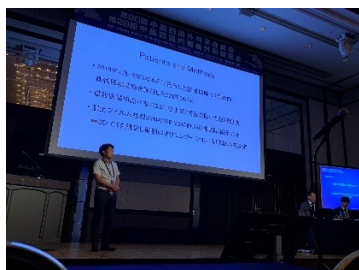


第76回胸部外科学会発表
臨床病理学的背景を検討し外科治療の
個別化に関する研究

第86回日本臨床外科学会総会
ICGを用いたリアルタイムナビゲーションの取り組み



第98回中国四国外科学会で区域切除術のシンポジウム 開催



糖尿病週間ブルーライトアップ



糖尿病フォーラム 徳島2024



秋のひまわり会(糖尿病患者会)





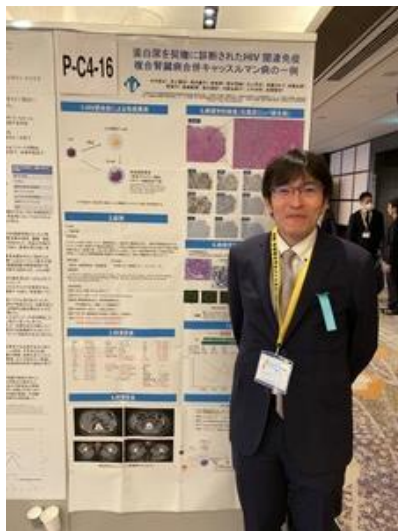
学会活動 添木 武

2024年9月27日
APHRS2024@シドニー
徳島大学循環器内科不整脈グループ
4名でシドニーにて開催された
APHRS2024に参加、2演題の発表を
行った。



2025年1月18日
第11回心電図道場(徳島大学病院)
今回で11回目の心電図の初心者向
けレクチャー、約50名の聴講者にご
参加いただき、大変盛況な会となっ
た。

第38回日本エイズ学会学術集会・総会 優秀演題賞 中村信元



出張肝臓教室 河野 豊

